

お台場旧防波堤(2 島)における鳥類のモニタリング調査 冬季調査(1 月)報告書

2025 年 2 月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域(周辺 50m 程度)

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 7 年 1 月 14 日(火)	8:00~14:00	晴れ

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8~10 倍程度の双眼鏡や倍率 20~60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

(1) 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(2) ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1~2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側 50m(両側 100m)とした。

(3) 定点観察調査

2 島の眺望のよい地点に定点を 2 点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

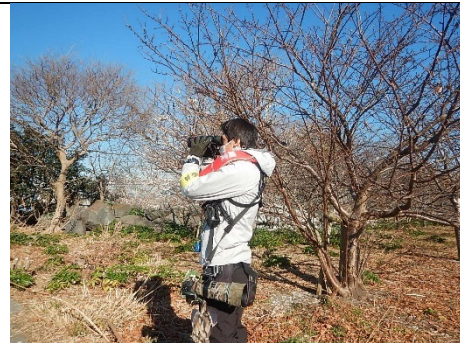
第 5 回秋季調査(※調査回の定義については後述する)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、カメラの不具合により前回調査から 28 日間であった(第 10 回秋季調査～第 10 回冬季調査)。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査



任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



エラー! 参照元が見つかりません。(2) 各調査手法における調査風景

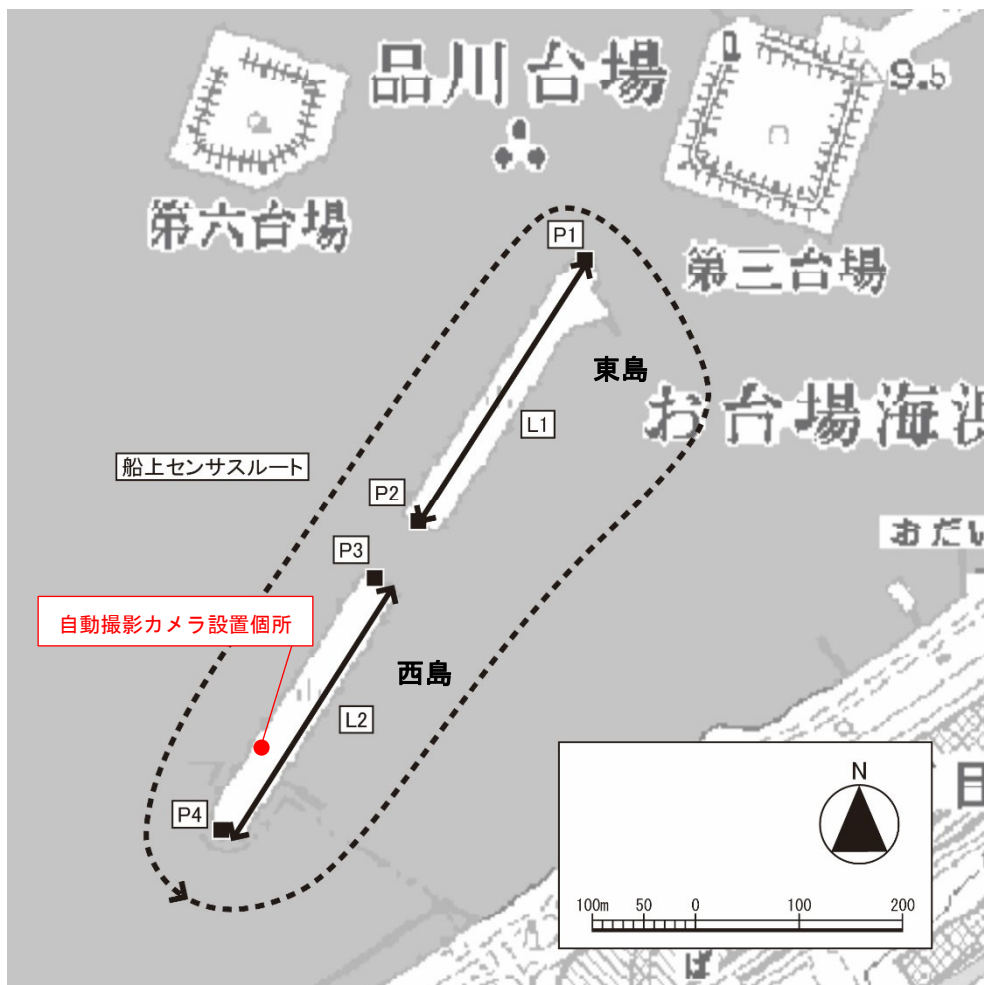


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 10 回の冬季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種 *①:準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、10 目 17 科 27 種が確認された(表 4)。
- 確認種の約 6 割が水域及びその周辺に生息する種であり、17 種(コガモやカワウ、セグロカモメ等)が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 6 種(ノスリやウグイス、アオジ等)が確認されたほか、様々な環境で見られる種として 4 種(キジバトやトビ、ハシブトガラス等)が確認された(表 4)。
- 当該地域における渡り区分別にみると、冬鳥(旧防波堤で冬に見られる種)の確認種数が最も多く、16 種(ホシハジロやカンムリカイツブリ、ジョウビタキ等)が確認された。次いで、留鳥(旧防波堤で一年中見られる種)が 11 種(カルガモやシジュウカラ、ハクセキレイ等)確認された。
- 重要種は、ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、オオバン、イソシギ、トビ、ノスリ及びハヤブサの合計 11 種が確認された(表 4)。島内では、護岸で休息や採餌するイソシギ、広葉樹林にとまるトビ及びノスリが確認された。島外では、主に海上で休息するスズガモのほか、採餌や遊泳するホシハジロやウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ及びオオバンが確認された。島内外では、海上および西島上空を飛翔するハヤブサが確認された。
- 外来種は確認されなかった(表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 301 個体(表 5)、ラインセンサスでは、両島で合計 188 個体が確認され、優占度は東島で 89%、西島では 75%を占めた(表 6)。また、定点観察調査では、両島で合計 206 個体が確認され、優占度は各地点 29~71%を占めた(表 7)。両島ともに上空通過や広葉樹林内にとまる個体が多く見られたほか、両島の広葉樹林内で抱卵や育雛する個体も確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種は、スズガモであった。船上センサスでは、東島で 130 個体、西島で 57 個体の合計 187 個体(表 5)、定点観察調査では、東島で 3 個体、西島で 1 個体の合計 4 個体(表 7)が確認された。両島周辺の海上で採餌や休息、遊泳する個体が多かったほか、東島の砂礫地及び護岸上で休息する個体も確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、イソシギ、ユリカモメ、ヒヨドリであった。イソシギは、船上センサスにおいて両島で合計 12 個体(表 5)、ラインセンサスにおいて両島で合計 1 個体(表 6)、定点観察調査において両島合計 6 個体(表 7)、ユリカモメは、船上センサスにおいて両島で合計 2 個体(表 5)、定点観察調査において両島合計 32 個体(表 7)、ヒヨドリは船上センサスにおいて両島で合計 4 個体(表

5)、ラインセンサスにおいて両島で合計 26 個体(表 6)、定点観察調査において両島合計 93 個体(表 7)が確認された。イソシギは、護岸で採餌する個体が多く、ユリカモメは、海上を飛翔する個体が多く確認された。ヒヨドリは、広葉樹林でとまりや上空を飛翔する個体が多く確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 9 回(前回調査)と第 10 回(今回調査)の確認種数は、第 9 回では東島で 25 種、西島で 25 種、合計 32 種、第 10 回では東島で 23 種、西島で 22 種、合計 27 種であった(表 8)。第 9 回及び第 10 回で確認された共通種は 23 種であり、第 9 回の確認種全体の約 7 割であったことから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 9 回で確認されず第 10 回で確認された種は、ウミウ、ハヤブサ及びウグイスの 3 種であった(表 8)。ウミウは、各季を通して調査開始以来、初記録となる種である。また、ハヤブサは、春季及び秋季の記録が多く、これまでの冬季調査では第 4 回調査の 1 例の観察記録があるのみで、今回が 2 例目となる。一方、ウグイスは冬季調査のうち、第 9 回を除いて全ての調査回で確認されていることから、前回調査では一時的に確認されなかったと考えられる。
- 第 9 回で確認され第 10 回で確認されなかった種は、ヒドリガモ、ウミネコ、ハイタカ、オオタカ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ及びドバトの 9 種であった(表 8)。そのうち、留鳥のウミネコ、オオタカ及びドバト、冬鳥のヒドリガモ及びハイタカは、これまでの冬季調査において不定期に観察されている種である。一方、留鳥のメジロ、ムクドリ及びスズメ、冬鳥のツグミは継続的に観察されている種であり、第 10 回では一時的に記録されなかったと考えられる。
- 第 9 回より第 10 回で個体数が増加した種は、カワウであった(表 9、10、11)。主に広葉樹にとまる個体や両島内外の上空を飛翔する個体が多く確認された。また、本種は、鳥の島両島を繁殖場所として利用しており、営巣数が第 9 回では東島で 131 巣、西島で 102 巣に対し、第 10 回では東島で 164 巣、西島で 71 巣が記録され、営巣数の合計は第 9 回で 233 巣、第 10 回で 235 巣とほぼ同じであった。第 10 回では東島での営巣数が増加した分、西島では減少していたが今回調査では、繁殖期の初期段階の個体も多く確認されたため、今後、西島での営巣数が増える可能性はある。そのほか、両島において、抱卵、抱雛及び育雛が確認された。
- 第 9 回より第 10 回で個体数が減少した種は、スズガモであった(表 9)。本種は、両島周辺の海域を主に休息場所として利用しており、個体数の年変動が大きい種であるため、今後の動向に留意する。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類 3 目 3 科 4 種、哺乳類 2 目 2 科 2 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカワウ、アオサギ、トビ及びノスリの 4 種、哺乳類ではクマネズミ属の 1 種(推定クマネズミ)及びアライグマの 2 種が確認された。
- 第 9 回冬季調査に引き続き、カワウが嘴で巣材をくわえる様子が複数回にわたり撮影された。鳥の島を営巣場所のほか、巣材の採集場所としても利用していると考えられる。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準			
					冬季(1月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2			コガモ	冬鳥	○	○				
3			ホシハジロ	冬鳥	○					VU
4			スズガモ	冬鳥	○	○				*②
5			ウミアイサ	冬鳥	○	○				DD
6	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	冬鳥	○					NT
7			カンムリカイツブリ	冬鳥	○	○				*②
8			ハジロカイツブリ	冬鳥	○					NT
9	ハト	ハト	キジバト	留鳥		○				
10	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
11			ウミウ	冬鳥		○				
12	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
13	ツル	クイナ	オオバン	冬鳥	○	○				CR
14	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
15		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
16			セグロカモメ	冬鳥	○	○				
17	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
18			ノスリ	冬鳥	○					CR
19	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥		○			VU	EN
20	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
21		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
22		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
23		ウグイス	ウグイス	冬鳥		○				
24		ヒタキ	ジョウビタキ	冬鳥	○	○				
25		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
26			タヒバリ	冬鳥	○	○				
27		ホオジロ	アオジ	冬鳥	○					
合計	10 目	17 科	27 種	-	23 種	22 種	0 種	0 種	1 種	11 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				冬季(1月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	コガモ	0	4	4
2			ホシハジロ	5	0	5
3			スズガモ	130	57	187
4			ウミアイサ	1	0	1
5	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	2	0	2
6			カンムリカイツブリ	4	4	8
7	カツオドリ	ウ	カワウ	128	173	301
8	ペリカン	サギ	アオサギ	4	1	5
9	ツル	クイナ	オオバン	4	0	4
10	チドリ	シギ	イソシギ	5	7	12
11		カモメ	ユリカモメ	2	0	2
12			セグロカモメ	1	0	1
13	タカ	タカ	トビ	1	4	5
14	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	2	4
15		シジュウカラ	シジュウカラ	0	2	2
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	2	4
17		セキレイ	ハクセキレイ	0	3	3
18		ホオジロ	アオジ	2	0	2
合計		8 目	13 科	18 種	15 種	11 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				冬季(1月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カツオドリ	ウ	カワウ	85	89%	103	75%	188
2	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	1%	1
3	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	1	1%	1
4	タカ	タカ	トビ	0	0%	3	2%	3
5	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	2%	2	1%	4
6		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	3	2%	3
7		ヒヨドリ	ヒヨドリ	4	4%	22	16%	26
8		ウグイス	ウグイス	0	0%	2	1%	2
9		ヒタキ	ジョウビタキ	1	1%	1	1%	2
10		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	0	0%	1
11		ホオジロ	アオジ	2	2%	0	0%	2
合計		5 目	11 科	11 種	95	100%	138	100%
				6 種		9 種		11 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				冬季(1月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	コガモ	0	0%	4	8%	0	0%	0	0%	4
2			スズガモ	3	6%	0	0%	0	0%	1	1%	4
3			ウミアイサ	2	4%	1	2%	2	1%	1	1%	6
4	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	0	0%	1	2%	0	0%	4	2%	5
5	ハト	ハト	キジバト	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	2
6	カツオドリ	ウ	カワウ	28	60%	26	49%	104	71%	48	29%	206
7	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1
8	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1
9	チドリ	シギ	イソシギ	2	4%	3	6%	1	1%	0	0%	6
10		カモメ	ユリカモメ	1	2%	2	4%	6	4%	23	14%	32
11			セグロカモメ	2	4%	1	2%	2	1%	3	2%	8
12	タカ	タカ	トビ	1	2%	4	8%	20	14%	5	3%	30
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	2%	2	4%	2	1%	0	0%	5
14		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	2	4%	0	0%	0	0%	2
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	4	9%	7	13%	6	4%	76	46%	93
16		ヒタキ	ジョウビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1
17		セキレイ	ハクセキレイ	2	4%	0	0%	1	1%	0	0%	3
18		ホオジロ	アオジ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1
合計	9 目	15 科	18 種	47	100%	53	100%	146	100%	164	100%	410
				11 種		11 種		10 種		11 種		18 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較:確認種

No.	種名	調査時期			
		冬季(1月)			
		第9回(R5~R6)		第10回(R6~R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	ヒドリガモ		○		
2	カルガモ		○	○	○
3	コガモ	○	○	○	○
4	ホシハジロ	○		○	
5	スズガモ	○		○	○
6	ウミアイサ	○	○	○	○
7	カイツブリ	○		○	
8	カンムリカイツブリ	○	○	○	○
9	ハジロカイツブリ	○		○	
10	キジバト		○		○
11	カワウ	○	○	○	○
12	ウミウ				○
13	アオサギ	○	○	○	○
14	オオバン	○	○	○	○
15	イソシギ	○	○	○	○
16	ユリカモメ	○	○	○	○
17	ウミネコ		○		
18	セグロカモメ		○	○	○
19	トビ	○	○	○	○
20	ハイタカ	○			
21	オオタカ		○		
22	ノスリ	○	○	○	
23	ハヤブサ				○
24	ハシブトガラス	○	○	○	○
25	シジュウカラ	○	○	○	○
26	ヒヨドリ	○	○	○	○
27	ウグイス				○
28	メジロ	○			
29	ムクドリ	○	○		
30	ツグミ	○	○		
31	ジョウビタキ	○	○	○	○
32	スズメ	○			
33	ハクセキレイ	○	○	○	○
34	タヒバリ			○	○
35	アオジ	○	○	○	
36	ドバト		○		
合計	36 種	25 種	25 種	23 種	22 種
		32 種		27 種	

表 9 前回調査との比較:船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		冬季(1月)			
		第9回(R5~R6)		第10回(R6~R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	コガモ	0	0	0	4
2	ホシハジロ	0	0	5	0
3	スズガモ	250	0	130	57
4	ウミアイサ	2	1	1	0
5	カイツブリ	0	0	2	0
6	カンムリカイツブリ	7	0	4	4
7	カワウ	83	73	128	173
8	アオサギ	14	0	4	1
9	オオバン	0	0	4	0
10	イソシギ	2	3	5	7
11	ユリカモメ	0	0	2	0
12	セグロカモメ	0	1	1	0
13	トビ	0	3	1	4
14	ハシブトガラス	2	1	2	2
15	シジュウカラ	0	0	0	2
16	ヒヨドリ	0	4	2	2
17	ハクセキレイ	2	2	0	3
18	アオジ	0	0	2	0
合計個体数		362	88	293	259
合計島別種数		8 種	8 種	15 種	11 種
合計種数		11 種		18 種	

表 10 前回調査との比較:ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		冬季(1月)							
		第9回(R5~R6)				第10回(R6~R7)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カワウ	0	0%	35	71%	85	89%	103	75%
2	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
3	イソシギ	0	0%	1	2%	0	0%	1	1%
4	トビ	0	0%	4	8%	0	0%	3	2%
5	ハシブトガラス	1	17%	2	4%	2	2%	2	1%
6	シジュウカラ	0	0%	0	0%	0	0%	3	2%
7	ヒヨドリ	1	17%	4	8%	4	4%	22	16%
8	ウグイス	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%
9	ツグミ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
10	ジョウビタキ	0	0%	1	2%	1	1%	1	1%
11	ハクセキレイ	2	33%	1	2%	1	1%	0	0%
12	アオジ	2	33%	0	0%	2	2%	0	0%
合計	12 種	6	100%	49	100%	95	100%	138	100%
		4 種		8 種		6 種		9 種	

表 11 前回調査との比較:定観結果

No.	種名	調査時期															
		冬季(1月)															
		第9回(R5~R6)								第10回(R6~R7)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	ヒドリガモ	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	コガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	8%	0	0%	0	0%
3	スズガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	6%	0	0%	0	0%	1	1%
4	ウミアイサ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	1	2%	2	1%	1	1%
5	カンムリカイツブリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	4	2%
6	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%
7	カワウ	50	89%	40	75%	25	69%	18	58%	28	60%	26	49%	104	71%	48	29%
8	アオサギ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
9	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
10	イソシギ	0	0%	3	6%	1	3%	1	3%	2	4%	3	6%	1	1%	0	0%
11	ユリカモメ	1	2%	0	0%	0	0%	2	6%	1	2%	2	4%	6	4%	23	14%
12	ウミネコ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
13	セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	2	4%	1	2%	2	1%	3	2%
14	トビ	5	9%	5	9%	2	6%	1	3%	1	2%	4	8%	20	14%	5	3%
15	ハシブトガラス	0	0%	1	2%	1	3%	0	0%	1	2%	2	4%	2	1%	0	0%
16	シジュウカラ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	2	4%	0	0%	0	0%
17	ヒヨドリ	0	0%	1	2%	3	8%	2	6%	4	9%	7	13%	6	4%	76	46%
18	ツグミ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	ジョウビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
20	スズメ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
21	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	2	6%	1	3%	2	4%	0	0%	1	1%	0	0%
22	アオジ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
23	ドバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	23 種	56	100%	53	100%	36	100%	31	100%	47	100%	53	100%	146	100%	164	100%
		3 種		8 種		8 種		11 種		11 種		11 種		10 種		11 種	

表 12(1) 鳥類確認種目録(第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○			
2	ヒドリガモ									○	○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○				
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カイツブリ												
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ			○								○	
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ウミウ												
20	ゴイサギ					○							
21	ササゴイ		○										
22	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	チュウサギ									○			
25	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	カッコウ科の一種											○	
28	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
29	ヤマシギ												●
30	タシギ								○				
31	チュウシャクシギ												
32	キアシシギ									○			
33	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	キョウジョシギ					○	○						
35	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	カモメ	○	○			○							
38	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
40	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
41	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
42	ハチクマ	○											
43	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
44	ハイタカ		○		○					○			

表 12(2) 鳥類確認種目録(第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●
46	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
47	オオコノハズク												
48	カワセミ			○			○			○		○	
49	チヨウゲンボウ		○				○	○					
50	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
51	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
52	カケス				○								
53	オナガ			○	○	○	○			○			
54	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ヤマガラ												○
56	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ヒバリ						○						
58	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
61	オオムシクイ								○				○
62	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
63	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
64	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
65	コムクドリ				○	○							
66	シロハラ	○	○	○	○						●		○
67	アカハラ	○			○			○			○		
68	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
71	キビタキ	○				○							
72	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	キセキレイ			○									
74	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	セグロセキレイ				○								○
76	タヒバリ						○				○		
77	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	シメ							○				○	
79	ホオジロ	○		○	○			○		○			
80	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
81	オオジュリン			○						○			
82	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	82 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12(3) 鳥類確認種目録(第 7 回～第 10 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ								
2	ヒドリガモ		○				○		
3	マガモ								
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ	○	○						
6	オナガガモ	○							
7	コガモ	○				○	○	○	○
8	ホシハジロ		○	○	○	○		○	
9	キンクロハジロ								
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ	○							
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○	○	○
13	カイツブリ			○		○		○	
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ								
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○		○	
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ウミウ								○
20	ゴイサギ								
21	ササゴイ								
22	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
23	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
24	チュウサギ								
25	コサギ	○	○	○	○	○	○		○
26	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○
27	カッコウ科の一種								
28	コチドリ	○	○	○	○	○	○		
29	ヤマシギ								
30	タシギ								
31	チュウシャクシギ		○				○		
32	キアシシギ								
33	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○
34	キョウジョシギ		○				○		
35	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○
36	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○
37	カモメ								
38	セグロカモメ	○	○	○	○		○	○	○
39	オオセグロカモメ	○	○						
40	コアジサシ								
41	ミサゴ							○	
42	ハチクマ								
43	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○
44	ハイタカ					○			

表 12(4) 鳥類確認種目録(第 7 回～第 10 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	オオタカ		●		○	○	○	○	
46	ノスリ	○	○		○	○	○	○	
47	オオコノハズク		●						
48	カワセミ	○							
49	チョウゲンボウ				○				
50	ハヤブサ		○				○		○
51	モズ	○							
52	カケス					○			
53	オナガ								
54	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ヤマガラ								
56	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ヒバリ								
58	ツバメ	○	○	○	○	○	○		
59	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ウグイス	○	○		○				○
61	オオムシクイ								
62	メジロ	○	○	○	○	○			○
63	オオヨシキリ					○			
64	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
65	コムクドリ								
66	シロハラ	○	○		○		●		
67	アカハラ				●		○		
68	ツグミ	○		○	○	○	○		
69	ジョウビタキ	○	○		○	○	○	○	○
70	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○	○	
71	キビタキ								○
72	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○
73	キセキレイ							○	
74	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○
75	セグロセキレイ								
76	タヒバリ							○	○
77	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	
78	シメ								
79	ホオジロ			○					
80	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	
81	オオジュリン								
82	ドバト	○	○	○	○	○	○		
合計	82 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	33 種	29 種
		48 種		40 種		45 種		39 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



写真 2 (1) 確認された主な鳥類



写真 2 (2) 確認された主な鳥類

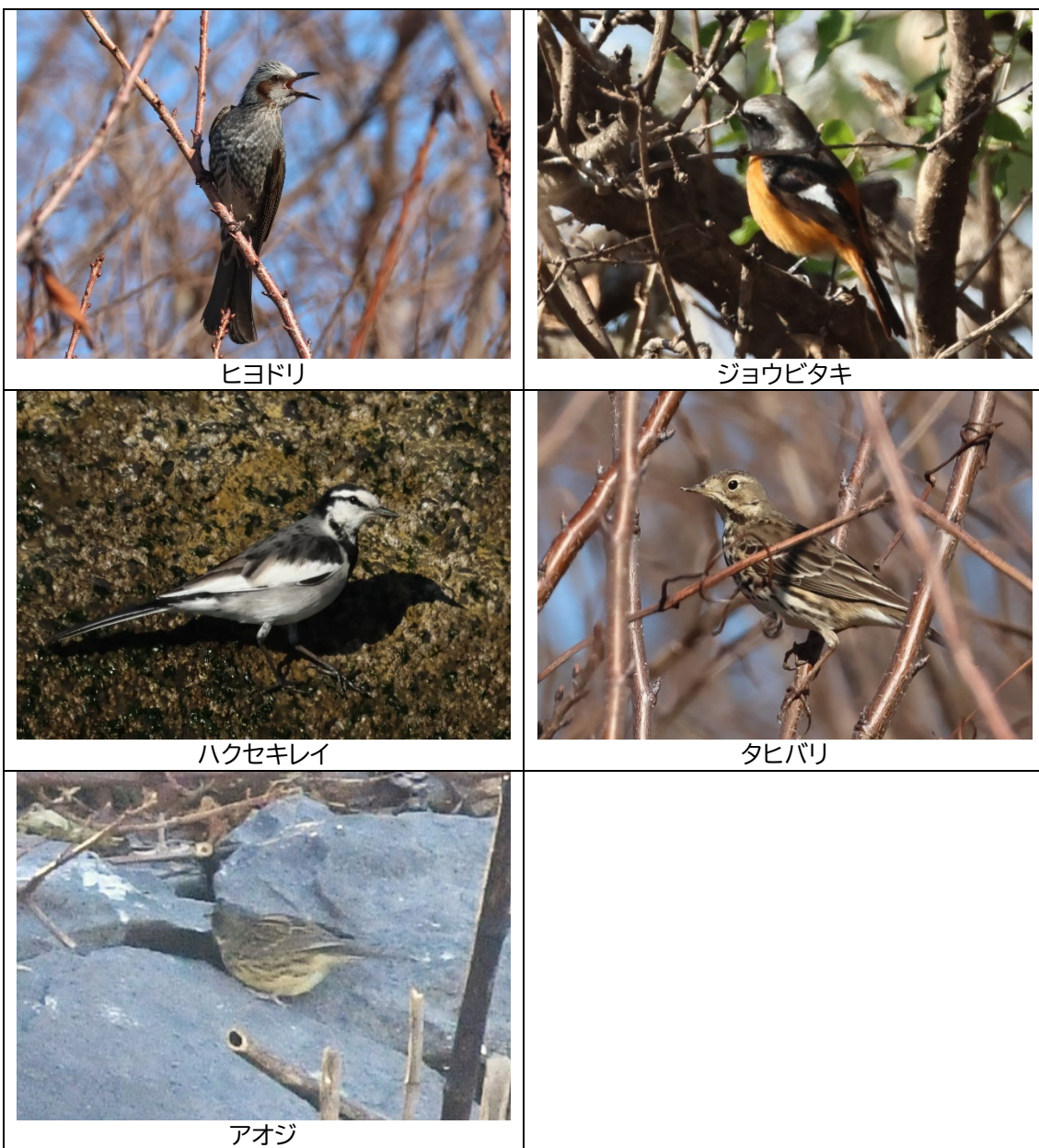


写真 2 (3) 確認された主な鳥類



カワウ(巣材をくわえる成鳥)



アオサギ



トビ(重要種)



ノスリ(重要種)



クマネズミ属の一種(推定クマネズミ)



アライグマ(特定外来生物)

写真 3 自動撮影カメラで確認された生き物